



田端区長の みなとの風だより Vol.47

弁天町駅前土地区画整理 記念事業案を決定しました

(2月12日筆)

1 経過

港区は大正14年の誕生時も、今と同じ区域になった昭和18年も人口が大阪市の区の中で一番を誇っていましたが、昭和20年の大阪大空襲とその後の枕崎台風の高潮被害で9千人を割り込みました(※1)。

本格的な戦後復興に取り組む中で、港区では高さ2mの盛土方式の区画整理事業を平成4年までかけて区域の約9割で実施、土地の所有者は自分の土地を約4割も提供し、その結果、平坦で街区がわかりやすい暮らしやすいまちになりました。

事業終了時、事業に活用しなかった土地については地権者に清算金として分配せず、記念施設を建設するために大阪市に換地することが地権者の代表者において了承され、弁天町駅前事業用地を残して、その他は売却し大阪市の基金に約37億円を積み立てました。

2 今まで事業化できなかった主な理由(課題と条件)

基金には限りがありますので建設後の記念施設の運営費をどう確保するか、誰が所有するのが大きな課題でした。【課題】

また、事業用地も基金も大阪市の保有ですので、事業化にあたっては全市的な視点に立った議会の承認が必要です。【条件】

検討当初は演劇ホールを核とした施設が期待され、平成14年度には施設運営費を生み出すためにマンション等との複合施設を条件にコンペを実施しましたが応募がありませんでした。ここ数年は、検討が20年以上にわたっていることから、安定的な施設運営等を考慮し、記念施設の一部を公共施設とすることも選択肢として検討を行ってきました。

3 今回事業案の考え方

(1) (仮称)区画整理記念・交流会館(以下「交流会館」と記載)

区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザを廃止し、幅広い世代が活動、交流できる新しい公共施設「交流会館」として一体的に再構築し、区役所が管理・運営を行います。大阪市内で一番狭い図書館もここに移転拡張し、まちづくりの歩みを後世に伝えるスペース等を確保します。【「課題」の解決】

現在、これらの各施設では、それぞれの局の所管のもとで各区類似の事業を実施しています。局の枠を外して、区役所が一体的に管理・運営するという今回の事業案は、区役所がまちづくりを総合的に担う新しい市政改革の下で可能となったもので、港区が大阪市内で初めて取り組みます。【「条件」に対応】

具体的な事業内容は、平成27年度に広く区民の意見をふまえて検討します。

(2) 大阪みなと中央病院との共同事業

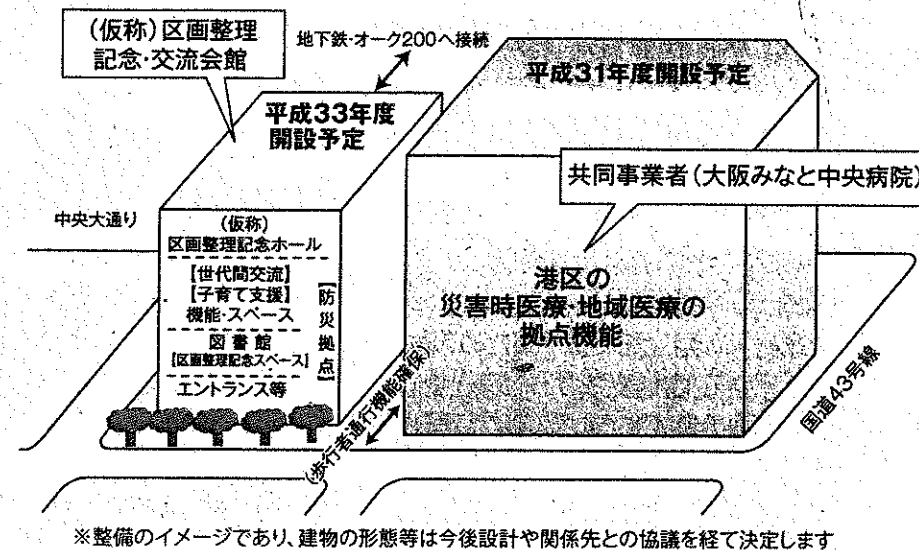
国において医療・介護改革が進められる中で、港区において地域包括ケアシステム(※2)の構築に取り組むためには、在宅医療提供体制を支える拠点病院として区内唯一の総合病院・救急指定病院である本病院との連携が必須と考えます。

このような状況のもと、本病院から、耐震性等の理由で早期の建替が必要で、ここ

に移転できなければ区(市)外転出を検討せざるを得ない旨の申し出がありました。

交流会館との併設について必要なスペースの確保、隣接地の取得、事業費など様々な観点から検討を行った結果、共同事業として、港区の地域医療・災害時医療の拠点機能の形成をめざす今回の事業案に至りました。【「条件」に対応】

弁天町駅前土地区画整理記念事業の具体化イメージ ～世代間交流と災害時医療・地域医療の拠点機能の形成～



4 区民の皆さんへ

今年は戦後70周年、そして港区政90周年の節目の年です。

港区は戦前から高潮被害と戦い、また戦争では壊滅的な被害を受けながら、戦後45年間に渡って世界にも類のない大規模な区画整理事業により住民と行政が力を合わせて復興してきたまちです。

今回の事業案では「新たな公共施設」において、幅広い世代の活動と交流を促進することで豊かなコミュニティを醸成し、将来に向けて活力あるまちづくりをめざします。また、病院との共同事業においては、地域包括ケアシステムを港区で構築していく礎とするとともに、今後想定される南海トラフ巨大地震に対応できる災害時医療連携をめざします。

事業案の公表から決定までの議論時間が短いとの批判の声もいただきました。私は、この節目の年に区民の皆さんと改めてこのまちの歩みを振り返りながら、将来のまちづくりにつなげていくことが重要であると考えています。その過程で、この記念事業の趣旨も区民の皆さんと十分に共有し、その趣旨に沿った今後の港区のまちづくりに貢献する事業として具体化してまいります。

なお、病院が移転する築港地域や区民センター等の併設マンションにお住まいの方など、今回事業に関係する皆さんには十分にご説明やお話し合いをさせていただきたいと存じます。

実りある記念事業の実現に向け、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【弁天町駅前記念事業の詳細】 <http://www.city.osaka.lg.jp/minato/category/2730-0-0-0-0.html>

※1 大正14年(大阪市13区)…港区人口 約28万人

昭和18年(大阪市22区)…港区人口 約27万人

※2 地域包括ケアシステム 高齢者が住みながら地域で自分らしい暮らしを継続できるようにするため、介護・医療・予防・生活支援・住まいを一体的に提供する仕組み

港区長 田端 尚伸

【弁天町駅前土地区画整理記念事業検討ワーキング】

○検討内容

土地区画整理記念事業の趣旨に沿った、子育て世代から高齢者まで幅広い世代が活動・交流できる（仮称）区画整理記念・交流会館で実施する事業の内容等を検討

○人数

23名（公募区民19名、区長推薦委員4名で構成）

○任期

平成28年3月31日

○開催回数

4回程度（公開）〔これまでに2回開催（第1回：8月3日、第2回：9月14日）〕

【検討ワーキングで委員の皆さんからいただいたご意見】（抜粋）

1. 交流会館をどんな場所にしたいか

○ハード面

〈ホール関係〉

- ・音楽の発表会や地域活動の発表、講演会などができる場にしてほしい
- ・事業的な要素を入れることで運営などにつながるお金を生み出す仕組みができないか
- ・大規模でフラットなホールで使い方が限定されないものがよい（客席や舞台などは収納可能）

〈エントランス関係〉

- ・エントランス部分をギャラリーや交流スペースにしてほしい
- ・誰でも自由に使うことができるロビースペースがほしい

〈屋上関係〉

- ・ガーデンテラス・屋上農園を整備してほしい
- ・太陽光発電を設置できるとよい

〈区画整理記念スペース関係〉

- ・区画整理による2mの盛土と区画整理前の地盤の差が見える壁を設置してはどうか
- ・最小限のスペースで効果的な紹介ができるようにしてほしい
- ・維持管理のための人と財の負担がかからないものにする

〈その他〉

- ・十分な駐輪スペースを確保してほしい
- ・病院棟と交流会館が3階以上（津波を想定）でつながっていてほしい
- ・中高生の自習ができるスペースがあるとよい
- ・調理室や防音設備のある部屋がほしい
- ・喫茶、軽食コーナーを充実してほしい
- ・自然食などを提供する食堂（体験型食堂やタニタ食堂的なもの）があるとよい
- ・自分たちがやりたいことに応じ柔軟に使えるパーテーションがほしい

○ソフト面

〈やりたいこと・使い方〉

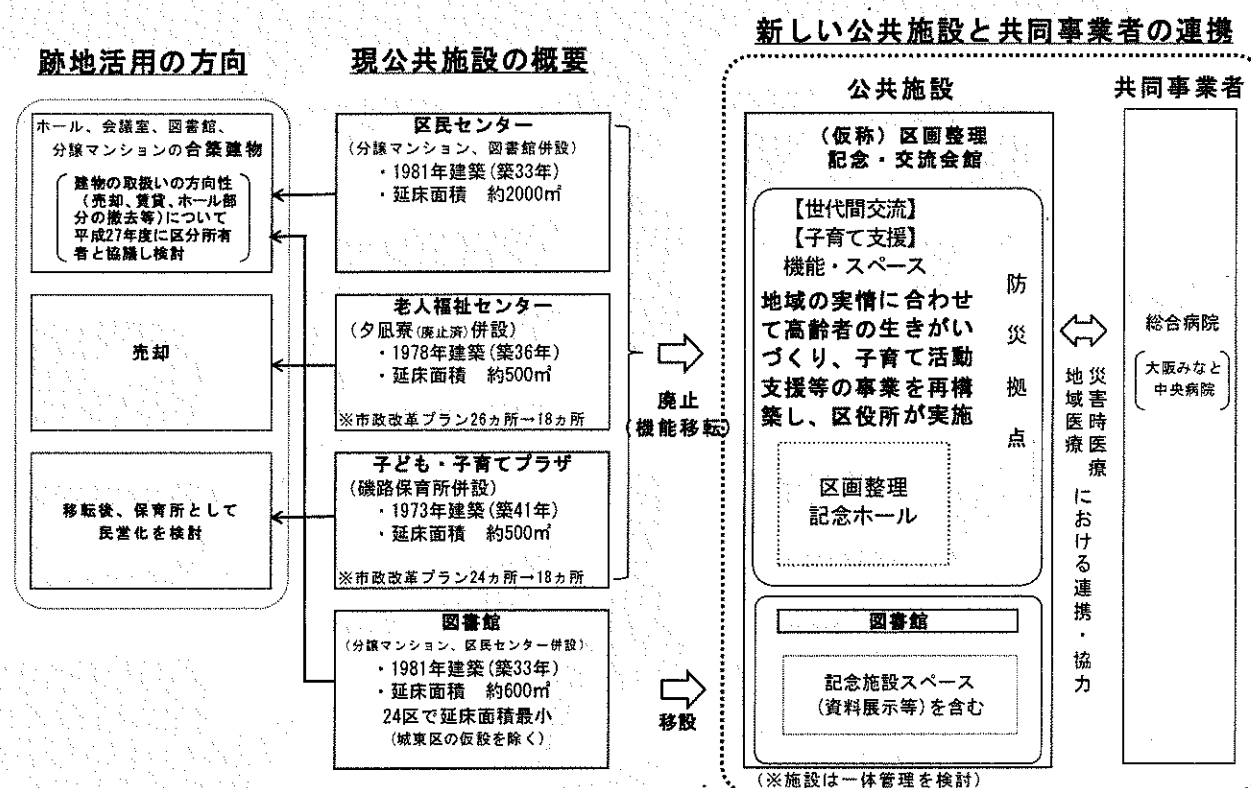
- ・全世代が横断的に利用できる場所にしたい
- ・孫と来ても楽しめる、親子で来ても楽しめるようにしたい
- ・いろいろな人が自由に出入りし、結果的に世代間の交流が起こっているような場所にしたい
- ・今までそれぞれの施設で行っている教室や講座がそのまま続けてできたらよい
- ・交流会館で行う講座や教室の作品展や発表会ができるとうい
- ・他の利用者への迷惑を考える必要がない、子どもたちが活発に遊べる場所がほしい
- ・病院が隣接するので、予防医学の知識が得られる、体験できる場所にしたい
- ・通りすがりの中高生もふらっと立ち寄ってもらえる場所にしたい

2. 交流会館の運営方法等について

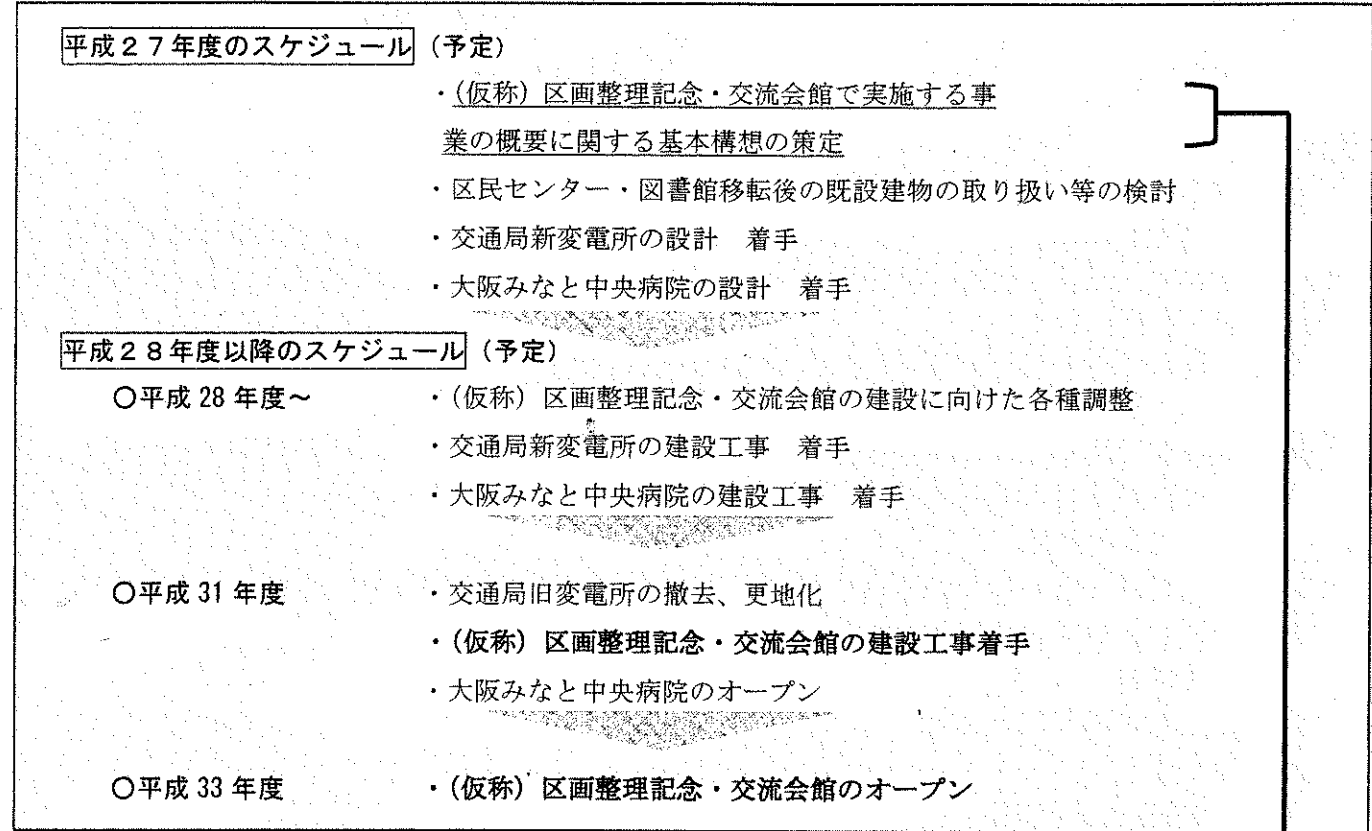
- ・区民による運営委員会をつくり、企画会議などを行ってはどうか
- ・区民による運営チェック体制をつくり、定期的に利便性などをチェックするとともにアンケートなどを実施してはどうか

〔参考〕

【（仮称）区画整理記念・交流会館の集約再編計画（案）】



○弁天町駅前土地区画整理記念事業の全体スケジュール



【平成27年度の予定】「弁天町駅前土地区画整理記念事業検討ワーキング」

（仮称）区画整理記念・交流会館で実施する事業概要の検討【スケジュール（予定）】

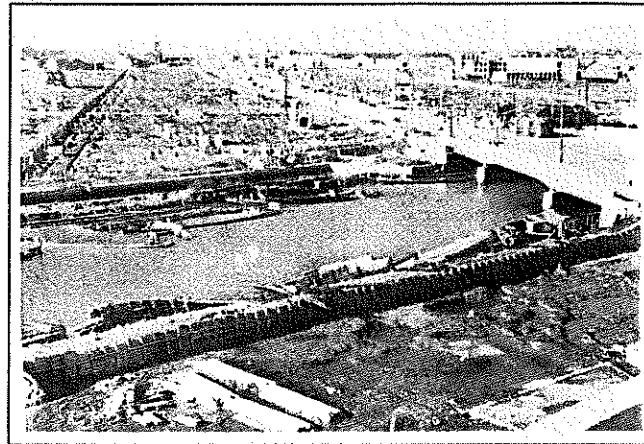
日程		検討内容など
8月3日	第1回ワーキング	事業概要等の検討について
9月14日	第2回ワーキング	事業概要等の検討について
11月	↓（区政会議経過報告）	
12月	第3回ワーキング	基本構想（案）意見とりまとめ
1月	↓（パブリックコメント）	
2月	第4回ワーキング	パブリックコメントを踏まえた基本構想（案）の説明
3月	↓（区政会議最終報告）	

※現時点での予定であり、ワーキングの今後の議論の状況などにより変更することがあります。

～ 戦後 70 年、港区政 90 周年を迎えて ～

江戸時代後期、現在の築港・天保山エリアは、「天下の台所」大阪の玄関口として栄えました。そして、1903（明治 36）年には築港大栈橋が完成し、大正から昭和にかけて日本屈指の近代港を擁するまちとして大きく発展しました。

港区は、1925（大正 14）年の誕生以降、第二次世界大戦までのほとんどの期間において、大阪市で人口が一番の区でした。しかし、1945（昭和 20）年の大阪大空襲では、大阪港を擁する港区は市内で最も大きな被害を受け、さらに、終戦直後の枕崎台風による高潮被害により浸水し、戦前約 32 万人あった人口が約 8,600 人まで激減しました。

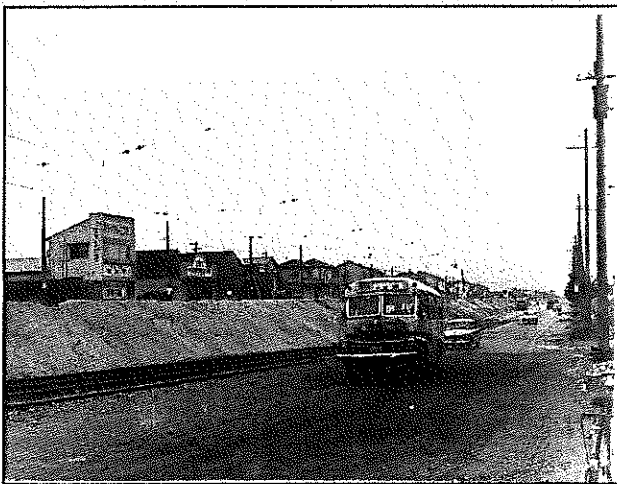


終戦直後の干船橋から築港方面

港区では、戦後復興として、1948（昭和 23）年から 1992（平成 4）年まで、実に 45 年間もの年月を費やし、区域の約 9 割に 2 メートルの盛土をするという、世界でも類のない大規模な土地区画整理事業が行われ、その結果、高潮の被害のない、平坦で区画のわかりやすいまちに生まれ変わりました。

今年は終戦から 70 年。そして、奇しくも港区政誕生から 90 周年の年になります。

この節目の年に、港区役所では、先人達が数多くの苦難を乗り越え、まちの発展のために尽力した「思い」や「心意気」を将来に引き継ぐ



盛土工事中のみなと通り（八幡屋）（山田昌次様提供）

ために、戦争体験や復興の記録を収集・整理し、わかりやすく後世に伝える取組を行っています。

大阪市は、土地区画整理事業が終了した平成 4 年以降、大阪市に換地された土地を活用した土地区画整理の記念事業について検討を続けてきました。そして、幅広い世代の活動と交流を促進することで豊かなコミュニティを醸成し、将来にわたって港区のまちづくりに貢献する公共施設「（仮称）区画整理記念・交流会館」を整備するとともに、大阪みなと中央病院との共同事業により港区の地域医療と災害時医療の拠点機能を形成するという方針を平成 27 年 3 月に決定しました。

現在、その実現に向けて具体的な検討を進めており、区民の皆さんのご意見を踏まえて今年度中に「（仮称）区画整理記念・交流会館」についての「基本構想」を取りまとめる予定です。

港区役所では、区民の皆さんと港区のまちづくりの歩みを振り返りながら将来に向けて活力ある港区のまちづくりに取り組んでまいります。

● 主な取組

(1) 資料等の収集・記録・整理

戦前から戦後の港区を中心とした大阪港周辺の建物、街並みなどの風景や戦後復興事業を伝える写真、映像、資料、記録等（資料等）を広く区民、市民から募集し、集めた資料等を整理・記録します。

今回の取組で収集した資料等については、「（仮称）区画整理記念・交流会館」で保管・展示します。

(2) 戦争体験者（語り部）の映像等の記録

港区や大阪港周辺の戦争体験を聞き取り、映像等で記録を作成します。

(3) 冊子やDVDの作成

収集した資料や語り部の記録等について、学校等における活用も含め広く市民に広報するためのDVDや冊子を作成します。

(4) パネル展示等

収集した資料等をパネル等にし、港区役所の区民ギャラリーや区民まつり等のイベントで展示します。

(5) HP や広報紙による広報

収集した資料等や語り部の記録を取りまとめ、港区や大阪港の歴史をわかりやすく広報するホームページを作成する他、語り部の体験談を広報みなどに連載します。

● 主なスケジュール

・平成 27 年 7 月～8 月

広報紙・区ホームページ等で、戦争体験を話していただける方（語り部）や戦争前後の写真や映像資料を募集

・平成 27 年 8 月

写真、資料等の記録（整理・編集）を開始

広報みなどで戦後 70 年の特集記事掲載。9 月からは戦争体験者の記事を毎月掲載

・平成 27 年 10 月

区民まつりで戦後 70 年、区政 90 周年記念パネルの企画展示（来場者数約 300 名）

戦争体験者（語り部）へのインタビュー実施（14 名）

・平成 27 年 11 月

区民まつりのパネルを港区民文化のつどいと併催で展示（来場者数約 270 名）

【今後の予定】

・平成 27 年 12 月

区ホームページに戦後 70 年・区政 90 年に関する記事を掲載（順次）

・平成 28 年 2 月

冊子及びDVDの完成

・平成 28 年 3 月

区民フォーラムを開催